

発行：小諸市地域ケア推進会議事務局（小諸市高齢福祉課・小諸市地域包括支援センター）

令和6年度 第1回地域ケア推進会議を開催！

5月28日に、今年度第1回の地域ケア推進会議・生活支援体制整備推進会議が開催されました。

今回は、年度が替わって委員が変更になっていることから、顔合わせやこの会議の目的や進め方を共有し、昨年度の取り組みの振り返りを行いました。

併せて、生活支援コーディネーターの取り組みとして、移動支援に関するモデル事業の取り組みについて報告がありました。



移動支援を考えるにあたり共有しておきたいこと

〔移動支援について考えるきっかけ〕

地域ケア推進会議では『移動』に関する地域課題について取り組んできました。ちょっと支援が必要な高齢者の移動手段の実態はどうなっているのだろうということで、市内ケアマネジャー・健康達人区らぶ参加者・民生児童委員協議会・こもろ愛のりくんコールセンター・市内タクシー会社・在宅サービス調整会議・地域包括支援センター個別ケース・生活環境課・地域での互助組織等へのヒアリングや意見交換を行い、実際にこもろ愛のりくんに生活支援コーディネーターが乗り調査を行いました。その結果、以下の3点の地域課題を確認し、それを受けて目指す地域の姿が以下のとおりとなりました。

〈地域課題〉

- ①愛のりくんは運行する側と利用する側に理解のズレがある
- ②愛のりくんはちょっとした支援※が必要な高齢者も多く利用している
※予約や登録・乗降
- ③ぎりぎりまで自分で運転をしており、公共交通の利用に慣れていない

〈目指す地域の姿〉

○誰もが行きたい場所に行くことを、移動手段がないことを理由にあきらめなくても良い地域

- ・高齢者ができるだけ長く運転ができる
- ・適切な時期に運転免許の返納がスムーズにできる
- ・住民が移動手段の課題を予め自分事として考えられる
- ・自分で車を運転する以外の選択肢があり、本人が使いこなせる



〔課題の整理からの展開〕

令和元年度第3回生活支援体制整備推進会議の内容として、公共交通であるこもろ愛のりくんだけで全ての移動をカバーすることは出来ないため、他の方法で補完していく必要があることを共有しました。

「移動」をテーマとした生活支援体制整備事業

●これまでの振り返り

地域包括支援センターに寄せられた地域住民からの声の中に「サロン活動に行きたいけど、自力だと行けない」「足が上がらないから、こもろ愛のりくんに乗ることが出来ない」等といったものがありました。

しかし、運賃を払えば誰でも自由に利用できるこもろ愛のりくん等の公共交通機関は、不特定多数の利用者への対応があり、個別的な移動課題への対応は難しいことが分かりました。

そこで、生活支援コーディネーターが行った調査により、他市町村の取り組みの中で、地元の社会福祉法人の空き車両を活用した事例があり、小諸市でも実施できないか検討を始めました。

その後、地域ケア推進会議の前委員でもあった社会福祉法人浅間福祉会の中村副理事長のご賛同とご協力により、移動支援のモデル事業を進めることとなりました。

●生活支援コーディネーターの活動内容報告

- ・モデル区の選定を3～4月に実施した結果、森山区（世帯数：569 世帯（R6.5.1 時点）高齢化率：約36%（同））に決定しました。森山区は森山区福祉推進委員会が主体となり、毎月2～4回介護予防活動を実施しており、移動手段さえあれば、参加者がもっと増えるのではということで、モデル区として選定されました。

- ・モデル事業実施に向けた打合せを4月16日に実施しました。打合せの内容は、モデル事業のルールについて協議し、社会福祉法人浅間福祉会の中村副理事長、森山区福祉推進委員会の会長・副会長、生活支援コーディネーターで協議を行いました。

- ・森山区福祉推進委員へ5月18日にモデル事業の説明を行いました。委員の皆様からは「良い取り組みだと思う。モデルでまずやってみて、今後もっと広げていければ良いね」「家が遠くて歩いて来れない人にとって、活動に参加するきっかけになりそう」等の前向きなご意見を頂きました。

- ・森山区健康達人区らぶ参加者へ5月28日にモデル事業の説明を行いました。モデル事業の詳細を生活支援コーディネーターから報告し、対象者を募ったところ、参加者の中から「帰りだけでも送ってもらえないか」「天気が悪い日は頼みたいかも」等のお声がありました。

●モデル事業（森山区）の実施スケジュール

日程	内容
6/25（火）	第1回移動支援モデル事業実施予定
7/23（火）	第2回 //
8/28（水）	第3回 //

●移動支援アドバイザー派遣について

県による移動サービス創出支援事業である移動支援アドバイザー派遣について、キックオフミーティングが5月22日に行われました。今後、担当のアドバイザーと連携して移動支援の取り組みを進めて参ります。

●今回の会議で出た意見等

- ・担い手不足が続いている中で移動支援を考えても2、3年後には破綻すると思うため、ボランティア等の他の情報収集も必要ではないか。買い物や受診等の日常生活に関わることで移動の困りごとを抱えている高齢者も多いため、考えてほしい。
- ・利用者の行動分析が必要ではないか。受診が難しい高齢者もいるため、受診等に対する移動支援を組み立てても良いのではないか。

「こもろ愛のりくん」

利用における状況把握について

モデル事業と並行して、6月以降に生活支援コーディネーターが実際に全線に乗り込んで、移動支援を考えるうえで参考となるような資料を作成していく予定です。

今回出た意見等を踏まえて、まずはモデル事業を実施し、支援の受け皿を増やす等、今後の取り組みを進めます。

